川口市立
[redacted]
第１８期生
第　２０号
平成２５年
１月　１５日

足利市ゆかりの偉人②

足利 義氏　（１１８９年～１２５４年）

鎌倉期の武将。足利氏第三代当主。
源八幡太郎義家→義国→義康→義兼と続く源氏の正流の血筋で、足利義兼の三男。母は北条時政の娘時子。通称 上総三郎。

鎌倉時代初期（義氏の幼少期）は、源頼朝の完全な独裁政治が行われていた。頼朝政権の強みは在地の武士領主層＝軍事力を持った領主、名主階級を御家人に組織していることにあった。御家人は頼朝から領地の領有権や新恩給付などを受けた。
義氏が十一歳の時、父義兼が亡くなり（1199 年） また、同じ年に頼朝が死亡。頼朝の死後、御家人達は互いの権勢と領地を巡って争った。
二代将軍頼家は北条氏の策謀により、伊豆修善寺に幽閉されて殺され、北条氏と他の御家人達との流血の争いが渦巻いた。梶原景時、比企能員、畠山重忠、和田義盛、三浦康時らは一族共々次々と滅ぼされた。
頼家のあとの三代将軍実朝も、頼家の遺子公暁に殺されたが、その張本人は北条氏であったといわれる。こうして頼朝の子孫は絶え、尼将軍といわれた政子と、その生家の北条氏が鎌倉幕府の実権をにぎった。有力御家人による評定衆など、合議制を採用し、貞永式目などをきめ、執権政治をゆるぎないものとした。北条氏は絶対の頼朝に従いながら、その同族である名門足利氏と婿を通じてこれを巧みに懐柔、索制し、足利氏の権門と勢力を味方にしながら、次々と政敵を倒し、野望を実現した。義氏は、頼朝を助けた幕府創業期の功臣、実力者たちが北条氏の策謀にかかって滅亡していくなかで、あえて北条側につき、その大きな戦力となった。

祖父義康から父義兼の代になった頃は、足利庄は現在のほぼ足利市全域から佐野市、館林の一部を含んだ広さになっていた。そして義兼が源平合戦の功業によって本領のほかに、各地に所領をえた。ついで義氏は、和田合戦で恩賞を得たほか、承久の変では美